

平成26年度
参画と協働のまちづくりの
推進に関する意見書

平成27年3月

鳥取市市民自治推進委員会

鳥取市市民自治推進委員会活動報告書

目 次

鳥取市市民自治推進委員会活動報告書

- 1．市民自治推進委員会委員になって
- 2．市民自治推進委員会の活動を振り返って
- 3．参画と協働のまちづくりフォーラムを開催して
- 4．市民まちづくり提案事業の審査を行って
- 5．市民活動表彰の審査を行って
- 6．鳥取市の市民活動と協働のまちづくりの支援策について
- 7．地域コミュニティにおける協働のまちづくりの取り組みについて
- 8．佐治地域での地域活動の取り組みを聞いて

参考資料

- 1 市民まちづくり提案事業助成金交付事業について
【市民活動促進部門】助成事業実績
【協働事業（行政提案型事業）部門】助成事業実績
- 2 鳥取市市民活動表彰制度について
- 3 まちづくり協議会の活動状況について
- 4 平成26年度参画と協働のまちづくりフォーラム事業報告
- 5 市職員研修について
- 6 鳥取市市民自治推進委員会について
鳥取市市民自治推進委員会委員名簿、開催実績

1 市民自治推進委員会の委員になって

○本委員会は鳥取市長の附属機関として、本市の参画と協働の推進に関する事項を調査・審議し、市長へ意見を述べるとされており、改めて役割の重さを痛感しているところです。委員会を通して、本市の「協働のまちづくり」に係るさまざまな事業に触れ、市と地域との関わりを改めて理解することができました。また、市民活動促進助成事業やまちづくり提案助成事業、市民活動表彰の選考審査を通して、多くの市民団体やNPO法人等が実に多様な分野でコミュニティ活動をされていることに驚くとともに、人口減少が進み集落の衰退が危惧される本市においても、地域活性化のために頑張られている地域や団体が多くあることを知り、心強く思いました。

○まちづくり協議会が全地区で組織化され、活動も次第に活発化していますが、地区公民館を拠点とした「協働のまちづくり」において、市職員による「コミュニティ支援チーム」と地区公民館職員の役割が大きいと感じています。また、自治を推進するために「地域コミュニティ」がいかに重要な役割を果たしているのかを改めて認識する機会ともなりました。

○社会人になって以来、地域住民の行政への参画に一貫して関心を持ち、鳥取市自治基本条例案の策定、その施行に伴う地方自治に対する市民の変化や市政に注視してきた委員の目から見ても、さまざまな活動が活発化しており、そのような動きを間近で感じられる委員になって良かったと思います。また、いかにこれからの鳥取市を創っていくか、いかに若者に楽しい人生を送ってもらうか、“鳥取ダカラ”を言い訳にせず、鳥取でも出来るんだ！やれるんだ！をたくさん創っていく為に日々活動している委員にとっては、活動を通して現状が見えてきたように感じます。各委員の活動にも、この経験を次にどうつなげるかがこれからの響いてきます。ここで得た知識や経験を還元しながら、市民が元気になるためにはどうしたらよいかを今後とも探していきたいと思います。

○市民にとっての自治とはどういうことか、また、住民が主体となって行動するにはどんな手立てが必要か等々考えることが多かったように思います。とても有意義な学びの機会であったとともに、暮らしやすいまちにするため、自分自身も地域づくりに参画協働していかなければいけないと深く認識する契機となりました。

2 市民自治推進委員会の活動を振り返って

○活動内容は、ほぼ例年に準ずるものですが、それぞれの課題に対して、各委員の専門性や知識、経験により、さまざまな角度から意見が交錯します。しかし、結果的にはまとまっており、本委員会の委員構成は非常にバランス良く選任されていると感じています。

○今回の委員会は、条例改正もなく比較的平穏な委員会となる予想をしていましたので、このようなときこそ委員もお互いに「参画と協働のまちづくり」について学習し、まちに出て住民の意見や提案を聞きたいと考えていましたが、十分な時間がとれませんでした。

○活動の一つに、平成26年1月におこなった兵庫県朝来市与布土地域への先進地調査・視察研修がありますが、地域自治システムの現状を把握し、地域住民全体による地域自治の取り組み姿勢や行政に頼らない地域経営についての意気込みに触れたことは、大変有意義でした。また、「参画と協働のまちづくりフォーラム」が開催できたことは、大きな成果であり、このフォーラムに参加できて良かったと感じています。

○委員会には多くの審議事項がありましたが、まだまだ未熟で自分なりの考えがまとまらないこともありました。他の委員の方の意見にいつも感心させられ、学ぶことの多い場となりました。

○本委員会の役割に、『参画及び協働の推進に関する事項について調査及び審議し、市長に意見を述べるとともに、市民に公表します。』ということがあります。この『市民に公表する』方法等にひと工夫必要だと思います。また、肝心な問題点を如何に解決していくかという部分を深く追求せずに2年が過ぎたように感じます。しかし、小さいながらも課題をこなしていく事でまた何か新しい発見もあると思いますので、今後ともこの委員会は開催すべきではないでしょうか。

3 参画と協働のまちづくりフォーラムを開催して

当委員会の設置目的は、参画と協働の推進に関する調査と審議ですが、一步踏み込んで、広報活動の一端を担うことも必要です。そのために市民とともに実行委員会を組織し、鹿野町で「参画と協働のまちづくりフォーラム」を開催しました。

平成20年度から開催しているこのフォーラムですが、本年は地方創生の時宜を得た企画であったと思います。人口減少が進む中山間地域の若者の活動に目を向け、本市西部地域で初めての開催となったこのフォーラムは、勇壮な逢鷲太鼓の演奏に始まり、パネルディスカッションでは、中山間地域にU・Iターンをし、それぞれの地域で特色ある活動をされている若者の勇気ある実績発表に心を打たれた人も多いと思います。

アトラクションの出演者もパネリストも元気に活動に取り組んでいる若者でしたので、「中山間地域における若者の活動からまちづくりを考える」というテーマに合致し、非常に充実したフォーラムでした。

しかし、当日は天候が悪く、近隣地域での事業が重なったためか、思ったより参加人数が少ないように感じました。これも日頃からの参画と協働についての市民の理解を深める活動と宣伝が足りないのではと思います。市民にとって魅力のある内容になってい

ないのか、まちづくりが未だ一部の人の取り組みにしかなく、参加者数の問題は大きな課題です。若者の参加も少ないのですが、もっと若者が集まるようもう少し入り口を広げてみてはいかがでしょうか。また、大学生や高校生の参加も考慮し、パネリストと気軽に意見交換できるような場を設定すれば、より効果的な事業になったように思います。

加えて、過去2年間は市民活動フェスタに統合されての開催でしたが、やはり、単独開催の方が効果的であると思われます。その理由は第1に、パネリストから、それぞれ、地域環境の魅力を発見・認識して、営農者と消費者を結びつける活動やアートイベント、映像作成により地域をつなぐ活動等、若者による地域活性化活動というテーマにふさわしい内容を聞くことができたことです。

そして第2に、来場者とパネリストとの間で、以前の単独開催時と同様に意見交換が見られたことです。このことは、来場者が地域づくりに関心を持っていることの証拠であり、フォーラムが地域づくりへの参画の機会ともなり、さらには、市が条例を設けていることへの認識にもつながります。このような意見交換は、市民活動フェスタでは見られなかった光景です。

各種行事が集中しない開催時期及び動員方法等の再検討が必要ですが、このような理由から、地域住民によるまちづくりの機運醸成のために、フォーラムを単独で開催することとし、鳥取地域ばかりでなく、西部地域、南部地域、東部地域での“出前開催”を望みます。

4 市民まちづくり提案事業の審査を行って

市民まちづくり提案事業には、地域の課題解決やまちの活性化のために市民活動団体が自ら行う事業への助成制度である市民活動促進部門と、市民活動団体と市が協働で行うことで更に効果が高まる事業への助成制度である協働事業部門があります。

この制度は、鳥取市市民活動促進事業を引き継ぎ、平成23年度から実施されていますが、特に協働事業部門は、やや広域的な課題解決に向けて地域住民が参画し、役割を果たすもので、方向性としては良い施策だと思います。

本年度の応募団体は2件と少なかったのですが、いずれも審査基準を満たし、市民を巻き込むことのできる素晴らしい内容でした。また、提案された事業は目的を十分に達成できるものであり、本事業の意義は大きいと感じます。

「鳥取民藝エリア活性化イベント事業」は、鳥取市の中心市街地である鳥取駅周辺で、一方の「殿ダム周辺広場完成記念音楽祭」等は、国府町の中山間地での開催と、異なった地域の大きな事業であり、市民の関心も大変高まったものと思います。今後もこのような事業がたくさん出てくることを期待します。

また、「いきいき成器の会」の「殿ダム周辺広場完成記念音楽祭」は、出演団体も多く、3千人を超える観客を呼び込み、発展性、継続性もあり、素晴らしいイベントでした。このように、やりようによっては大きく発展できるこの制度に、なぜ応募団体が少ないのかなどの理由を検証し、改善策を検討することも必要です。

行政提案型事業は「提案団体と市が協働して取り組み、行政課題の効果的な解決が期待できるものを対象とし、地域の課題解決やまちの活性化のために、市民と行政の協働のまちづくりを推進すること」を目的とされていますが、行政の協働部分が関係機関、他部署との連携などが主であり、もう少し積極的な関わりを担うことで、事業効果を更に上げることができるようだと思います。また、当該活動のすそ野を広げるために、助成対象となった団体等の活動内容・効果等を市民に広報していくことも必要です。

重要なことは、地域住民が継続して参画・活動していくことであり、そのためには、立ち上げ時のみではなく、立ち上げからの数年間は、市の助成支援があっても良いのではないのでしょうか。

市民活動促進部門の提案事業に関しては、委員の中でもさまざまな考えがあります。経済効果を生むということではなく、趣味レベルであるとの意見や、提案されている内容は、どの地域でも実践されていることであり、この制度を知っている団体が応募している感が拭えないとの意見もあります。しかし、それがまちづくりにつながるのであれば大いに実施していただき、これが契機となって、他にも広がっていくことを期待したいと思います。今後は体力のある若者が提案を出せる体制を作っていくことも課題ではないのでしょうか。

5 市民活動表彰の審査を行って

活動の主体者の年齢層、活動の内容、活動期間とも多岐にわたっており、本市における市民活動の幅広さを実感するものでした。

本年度の表彰において、先駆的な活動を長期にわたって継続してこられた団体等を中心として表彰できたことは有意義であったと思います。今後とも、市民活動の励みになるよう、表彰制度は継続すべきであり、受賞団体の活動内容等を広く市民に広報し、市民参画の機運醸成を図っていく必要があります。

本年度は11の応募があり、そのうち2名と4団体が表彰されました。応募数としては多かったものの、団体活動をしている個人を対象とした申請が数件見られ、公園管理や防犯ボランティア等の他の制度の表彰等に属するものも多くありました。規範となる鳥取市市民活動の推進に関する条例には、適用区分が19もあり、これを「自主的・自律的で、営利を主たる目的としない活動」というだけで選考するのでは、推薦者も可否の判断がしづらいと思います。コミュニティ活動は、地域住民が一つの団体・組織を作

って活動するのが一般的であるとの考えから、委員の中には表彰対象を団体・組織とすべきであるとの考え方もあり、募集、応募段階で申請、推薦範囲を明確にしておく必要があります。

また、活動年数1年ながら、全県的に見ても極めて先駆的で公益性の高い活動団体が鳥取市で生まれ、表彰されました。小さな活動にも光をとの表彰趣旨を踏まえて、顕彰していくことは重要ですが、活動期間の制限、例えば5年以上継続的に活動している者等のしぼりはかけたほうがいいのではないかとの意見もありました。審査については委員それぞれに考え方があったと思いますが、誰もが納得する結果となりました。

しかし、これらが将来にどう繋がっていくのかが見えてきません。このモデルを更に成長させていくにはどうしたらよいかを今後は考えていくべきではないかと思いません。

6 鳥取市の市民活動と協働のまちづくりの支援策について

「鳥取市のボランティア活動は、割と活発になってきた」とマスコミ関係者から聞くようになりました。このことは、平成20年度から始まった市民活動助成事業、表彰制度、フォーラムの開催、まちづくりの手引き作成等による広報活動等、市の促進施策の効果もあったと思われます。表彰や助成制度は効果的ですが、活動を推進していくのは人であり、更なるまちづくりの推進のためには、なんとしてもリーダーの存在、育成がポイントです。

自治連合会や青年会議所等と協働して、それぞれの場所を会場に、テキスト代や講師招聘費用といった運営費は市が助成する“リーダー育成塾”を開催するといったやり方も1つの方法としてあると思います。

また、コミュニティにおける協働のまちづくりの実践は、その多くを地区公民館が担っています。この現状を見るに、地区公民館職員の資質や指導力は「まちづくり」に大きく影響するものと考えますので、職員に対する有益な研修の実施を望みます。

各地区においては、自治会費が高い、寄付金が多すぎるなどの声が多く聞かれる今日、どの自治会やまちづくり協議会でも運営財源の確保に苦慮されています。このような中、鳥取市から、地区・町区自治会補助金の支援を始め、まちづくり協議会活動への手厚い支援、さらには防災会活動の支援等により、安全安心な住みよいまちづくりが推進されています。このような財政的支援を今後も継続していただきたいと思いません。

まちづくりの進め方として、例えば、ある集落での活動を周辺の地域に発信して人集めするという場合がありますが、それだと一部の地域だけの活動になり、事業の拡大や増員に繋がりにくいように思います。また、他地域での成功例を真似てその事業を実施する傾向にあります。地域の独自性が活かさないのではないかというおそれもありま

す。人的支援や財政的支援ももちろん必要ですが、毎年の活動状況の調査や支援策を検討していくことも大切です。

また、現在どのまちづくり協議会も一律の支援策となっていますが、それではまちづくりに対しての意欲を削ぐ感がします。枠を設けず、必要な団体には見合った額を交付するという支援制度の必要性を感じます。

7 地域コミュニティにおける協働のまちづくりの取り組みについて

現在、鳥取市では地区公民館を単位に、61地区でまちづくり協議会が設置されていますが、地域コミュニティ活動の拠点として地区公民館に着目したことは、建設的・現実的だったと思われます。現在、ほとんどの地区で地域コミュニティ計画が策定され、具体的な活動が行われています。年々、各地区において地域の魅力を生かそうと創意工夫する気風が生まれているように感じられ、大変嬉しい流れになっています。

いずれも設立後5年程経過し、毎年の反省の下に改善を加えながらそれぞれの地域性を活かし、充実した取り組みがなされていると聞いています。しかし、その活動状況を把握・総括し、更なる発展へ検討してみる必要があるのではないのでしょうか。

また、住民に一番近いコミュニティは町内会ではないかと考えます。平成25年度に行った鳥取市自治基本条例の見直しにおいて、新たに「危機管理」条項が追加されましたが、災害時に共助の要となるのは、日常生活の接点が多い近隣者です。しかし、近隣者でも顔と名前がはっきりしない関係は少なくありません。まちづくりを推進する鳥取市自治連合会でも、年2回広報誌を発行したり、会長研修会等で情報交換を行ったりして発展的に取り組まれています。しかし、「協働のまちづくり」という意識を町内会活動に浸透させ実践できれば質の高い地域コミュニティを形成できると考えます。

あくまでも協働であるという点を理解することが肝要であり、市側からだけでなく、住民の側からだけでなく、共に行うことが重要です。地域コミュニティ、協働のまちづくりについて、特に若者にはまったく伝わっておらず、興味も持っていません。今後どう周知していくかを検討し、もっと分かりやすく簡単に、必要性を伝えながら行っていくべきではないかと思えます。

8 佐治地域での地域活動の取り組みを聞いて

地域おこし協力隊の方々から各取り組みの現状を伺い、明確な目標をもって取り組んでおられる姿勢に触れることができました。大変好感が持たれ、我々委員だけではなく、フォーラムを通じて市民の方にも披露できれば良かったと感じています。

県外からやってこられた協力隊の皆さんが、米を始め価値のある農産物づくりや販路開拓、さらには物流まで研究されており、これらの活動を通じて、この地で今後も生活しようとされている姿勢には強く惹かれるものがありました。

市としても彼らを支援して、決して挫折で終わることのないようにしなければなりません。この制度の委嘱期間は最長3年間ですが、作物を育てる農業においては、将来に向けた手応えを得るには期間が短いように感じます。

彼らを受け入れる地域住民が大きな関心を持ち、隊員の方々と接しながら諸問題を克服し、成果をあげられることを期待します。それと同時に、この成功経験を他地域でも活かせるように一般化し、集積していただきたいと思います。

